

**第 1 回 和気町バリアフリー推進協議会
議事要旨**

1. 日時

令和 5 年 8 月 30 日（水）15:00～16:30

2. 場所

和気町役場 2 階 大会議室

3. 委員

下表のとおり

No.	所属	肩書
1	和気町	町長
2	和気商工会	会長
3	I P U環太平洋大学	次世代教育学部 教育経営学科 教授
4	和気町老人クラブ連合会	会長
5	和気町身体障害者福祉協会	会長
6	もみじの会 和気町精神障がい者家族会	
7	公益社団法人 岡山県聴覚障害者福祉協会	事務局長
8	和気町手をつなぐ親の会	会長
9	和気郡 P T A 連合会	会長
10	西日本旅客鉄道株式会社 岡山支社 地域交通課	課長
11	一般社団法人岡山県タクシー協会	専務理事
12	岡山県備前警察署 交通課	交通課長
13	国土交通省 中国運輸局 岡山運輸支局	首席運輸企画専門官
14	岡山県 備前県民局 東備地域事務所	地域建設部長
15	和気町 教育委員会	教育長
16	和気町 危機管理室	室長
17	和気町 健康福祉課	課長
18	和気町 都市建設課	課長

4. 事務局

和気町 都市建設課：課長補佐、主事、係長

5. 委託事業者

八千代エンジニアリング株式会社

6. 委員会資料

委員名簿

協議会設置要綱

資料1：和気町バリアフリー基本構想策定の背景と目的

資料2：バリアフリーに係る現状・課題と基本方針（案）

資料3：地区指定及び生活関連施設・経路（案）

資料4：まち歩き点検ワークショップの実施方針

資料5：今後の進め方とスケジュール

参考1：法制度の概要

参考2：現地踏査結果の概要

7. 議事の概要

1 開会

和気町都市建設課 係長より開会、次第の説明及び資料確認を行った。

2 町長挨拶

和気町長より挨拶を行った。

3 委嘱式

和気町長から委員に委嘱状を渡した。

4 委員紹介

各委員から自己紹介を行った。

5 事務局紹介

事務局から自己紹介を行った。

6 会長・副会長の選出

「和気町バリアフリー推進協議会設置要綱 第4条第1項」に基づき、委員の互選により、会長・副会長が選任された。

7 議事

事務局より、以下の議事について資料を用いて説明を行った。

- (1) バリアフリー基本構想策定の背景と目的について
 - ・ 資料1 和気町バリアフリー基本構想策定の背景と目的
- (2) バリアフリーに係る現状・課題と基本方針（案）について
 - ・ 資料2 バリアフリーに係る現状・課題と基本方針（案）
- (3) 地区指定及び生活関連施設・経路（案）について
 - ・ 資料3 地区指定及び生活関連施設・経路
- (4) まち歩き点検ワークショップの実施方針について
 - ・ 資料4 まち歩きワークショップの実施方針
- (5) 今後の進め方とスケジュールについて
 - ・ 資料5 今後の進め方とスケジュール

事務局： スケジュールとして、まち歩き点検ワークショップを10/24（火）～27（金）の14～17時、第2回協議会を11/20（月）～22（水）・24（金）の15～17時のいずれかを予定している。

後日、日程に関して文書で送付するので、返信をいただきたい。

委員： 資料2 P.1 人口の状況の「現状・課題の整理」に記載のある『心のバリアフリーの推進』は重要であると考えます。基本構想において、どのような位置づけとすることを考えているのか。

事務局： 心のバリアフリーの推進にあたっては、小学校等を中心に児童・生徒に向けて、障害への理解を深めてもらうための教育啓発として出前授業等を検討している。

委員： 資料3 P.2 「促進地区・重点整備地区の設定」でイオンタウン和気へのアクセスは、バリアフリーに加え、活性化という点においても重要であると考えます。基本構想において、どのような位置づけとすることを考えているのか。

事務局： 現状として、歩道幅員が狭い、視覚障害者誘導用ブロックが整備されていない等の課題があることを認識しており、促進地区内における生活関連経路として位置づけることを検討している。

また、商業施設の方々もバリアフリー化の取組みを促進する意向を持っていることが多いため、今回のバリアフリー基本構想の取組みを通じて、商業施設の方との意見交換の場を設けることは重要であると考えます。

委員： 資料3 P.4 「生活関連施設・生活関連経路（案）」で生活関連経路は、重点整備地区と促進地区とで表示の仕方が異なっているが、その違いは何か。

事務局： 重点整備地区内に設定した生活関連施設・生活関連経路に対しては、具体的な事業を定めることになる。

一方、促進地区内に設定した生活関連施設・生活関連経路に対しては、具体的な事業は定めず、方向性を示すことになる。

なお、JR和気駅の南北を結ぶ地下通路は、駅南側はスロープが整備され、車いすの方も通行しやすくなっている。一方、駅北側は地形の問題もあり、スロープの勾配が急で車いすの方の通行が困難となっている。

- 委員： 第1回バリアフリー推進協議会は、バリアフリー化に向けた第一歩である。
また、10月のまち歩き点検ワークショップでは、実際に現地を歩くことで様々な課題が見えてくると考えられる。
そして、その結果を踏まえて、第2回、第3回のバリアフリー推進協議会で基本構想が取りまとめられていくと理解している。
今後、バリアフリー化を進めていくにあたり、資料1 P.4 5 目標年次で、目標年次を令和15（2033）年度に設定している理由は何か。
- 事務局： JR和気駅を中心としたバリアフリー化が重要であると考えている。
特に、和気駅では駅構内での上下移動を可能にするために、エレベーターの整備が必要であると考えている。
また、並行して駅周辺の整備を進めることを考えると10年という期間が必要であるとする。
- 委員： 資料2 P.1 上位・関連計画での位置づけで整理している内容に関して、今回策定するバリアフリー基本構想との関係性を教えていただきたい。
- 事務局： 第2次和気町総合計画は、町全体の将来像を示しており、政策テーマの1つとして「JR和気駅の整備」を掲げてユニバーサルデザインに基づく環境整備を推進することを示している。また、バリアフリー関連事業として「公共交通の維持・充実」や「障がいに対する理解や配慮」を示している。
和気町地域公共交通網形成計画は、公共交通サービスの充実による外出頻度の向上や健康寿命の延伸を図るとともに、JR和気駅周辺を中心とした町なかエリア内の主要施設を繋ぎ、町なかでの移動を確保する方針を示している。
和気町鋼橋施設等総合管理計画は、大規模改修・更新等にあわせ、施設の状況や利用者のニーズを踏まえながらバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、利用者の快適性や利便性の向上を図ることを示している。
- 委員： 国としてもバリアフリー化を積極的に進めていることから、まち歩き点検ワークショップ等を通じて地元の方々の意見が反映された基本構想になることを期待する。
また、交通計画の見直しも予定されていることから、バリアフリーとの相乗効果が期待できる。
- 委員： 障害当事者や高齢者の方々からの意見を基本構想に反映させることは重要である。
そのため、立場によって視点やニーズが異なることから、まち歩き点検ワークショップには、子育て世代や学生など様々な方に参加していただきたい。

8 閉会

事務局より閉会の挨拶を行った。